

令和3年12月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和3年12月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

八戸市青葉から田向に新築移転する市総合健診センターが完成し、来年1月4日に供用を開始することとなりました。

新施設は3階建て、延べ床面積は5,750㎡で、1階には受付や待合ホールのほか、筋力トレーニングやランニングマシンを体験できる「ウェルネスホール」が配置されております。

2階の健診フロアは女性専用と共用のスペースに分かれ、ほとんどの検査スペースが個室になっており、3階は主に人間ドック利用者の食事・休憩用のラウンジやデッキテラスで構成されております。

近隣には市立市民病院や市総合保健センターが立地しており、今回の整備によって、市民の命と健康を守る拠点としての機能が期待されます。

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸12月号 レポート

令和3年11月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	八戸市新美術館オープン
(2)	八戸市新美術館 開館記念展「ギフト、ギフト、」公開
(3)	山車小屋整備前進 旧柏崎小跡地 用途地域変更へ
(4)	八戸新市長就任 熊谷市政スタート
(5)	八戸市営魚菜小売市場リニューアル 来年3月から数カ月延期
(6)	八戸-仙台359キロ 三陸道 12月18日全線開通
(7)	八戸市と苫小牧市 2022年度事業計画決定 三陸沿岸道路を活用し物流、観光を促進

【産業】

記事	概要
(8)	八戸港 今季初2000トン超え サバ、マイワシ水揚げ
(9)	俵屋（八戸）と仙台の大学連携 サバおでん登場
(10)	三八地域 阿房宮収穫大詰め
(11)	青銀、みち銀 統合最終契約 プロクレアHD 来年4月設立
(12)	世界初 雪腐病への抵抗力測定
(13)	国内唯一 米大手旅行誌英ウェブ版に八戸圏域特集

【地域】

記事	概要
(14)	はちのへ菊まつり 大輪の花 鮮やか
(15)	八戸の潮風トレイルPR 八戸東高生、映像制作
(16)	工大二高生制作 新作観光ポスター披露
(17)	老舗料亭「つきが田村」4代目・依田さん「割烹銀波」（八戸）で修行中
(18)	八戸花火大会 冬の夜空彩る6000発

【文化・スポーツ】

記事	概要
(19)	一王寺遺跡（八戸）から国内最古の縄文土面出土
(20)	来年の八戸えんぶり 一斉摺り実施
(21)	ヴァンラーレ八戸 ホーム最終戦白星 J2昇格「来季決めて」

【行政】

記事	概要
(1)	<p>八戸市新美術館オープン</p> <p>八戸市が中心街に整備を進めていた新たな市美術館が11月3日、オープンした。旧美術館の閉館から4年7か月ぶりに誕生した市の文化芸術拠点。市民やアーティスト、スタッフが共に学び、創り上げる「アートファーム」がコンセプトで、市は「これまでにない形の美術館」を目指している。地上3階建て、延べ床面積は4,586平方メートルで、巨大空間のジャイアントルームを核に、展示や創作活動を発表する大小の個室群が配置されている。オープン当日は、多くの市民が、開館記念展「ギフト、ギフト、」を観覧したり、ジャイアントルームでくつろぐなどして生まれ変わった施設を楽しんだ。</p>
(2)	<p>八戸市新美術館 開館記念展「ギフト、ギフト、」公開</p> <p>11月3日にオープンした八戸市新美術館で同日、約300年の歴史と伝統を誇る八戸三社大祭を切り口にした初の企画展「ギフト、ギフト、」が開幕した。これまで八戸の文化や人を題材に作品制作をした写真家の田附勝さんや浅田政志さん、八戸周辺に根付く馬文化に迫ったドキュメンタリーを撮影した映像作家の大澤未来さんなど11組のアーティストらによる独特の視点を通じ、身近な伝統行事の新たな価値や人とのつながりを見詰め直すことができる展示となっている。来年2月20日まで開催される。</p>
(3)	<p>山車小屋整備前進 旧柏崎小跡地 用途地域変更へ</p> <p>八戸三社大祭の山車小屋整備が計画される八戸市柏崎地区の旧柏崎小学校跡地を巡り、市都市計画審議会は11月11日、跡地に山車小屋が整備できるよう用途地域を変更することに同意した。現行の「第一種住居地域」では常設の山車小屋が整備できないため、市が「近隣商業地域」への用途地域変更を審議会で諮ったもの。跡地約1万6千平方メートルに、山車小屋6棟と広場を整備する予定だが、詳細は地域住民と意見交換しながら今後、詰める。</p>
(4)	<p>八戸新市長就任 熊谷市政スタート</p> <p>10月31日投開票の八戸市長選で初当選した熊谷雄一氏が11月17日、第26代八戸市長に就任した。前任の小林眞氏から16年ぶりとなる市政トップの交代。熊谷市長は八戸市庁に初登庁し、幹部職員を前に「これまで以上に市民に寄り添い、市民の意見を聴いて職務にまい進してほしい」と訓示し、選挙戦で訴えた市民との「対話と共感」の実践を呼び掛けた。また就任の記者会見では、「市民生活の質の向上や新しい産業振興につながる第一歩となるような予算編成にしたい」と述べ、選挙戦で掲げた政策公約を順次、新年度予算編成に反映させる考えを示した。</p>
(5)	<p>八戸市営魚菜小売市場リニューアル 来年3月から数カ月延期</p> <p>八戸市は11月19日、改修工事を進めるJR陸奥湊駅前の市営魚菜小売市場のリニューアルオープンが、当初の予定より数カ月程度遅れるとの見通しを示した。今年5月に着工し、2021年度中の完成を目指していたが、工事中に鉄筋の腐食が見つかり、新たな補修作業が必要となった。日常的に水を使う施設の性質上、長年にわたってびびの入った柱に水が染み込むなどして、鉄筋が劣化していったとみられる。11月8日から現場での作業を一時中断しており、柱の補強などの対策を行った上で本来の改修工事に入る。完成時期は、2022年度中にずれの見込み。</p>
(6)	<p>八戸ー仙台359キロ 三陸道 12月18日全線開通</p> <p>国土交通省三陸国道事務所は11月19日、東日本大震災の復興道路として国が整備を進める三陸沿岸道路のうち、久慈インターチェンジー普代村第16地割間が、12月18日に開通すると発表した。同区間の完成で、三陸沿岸道路は震災から10年を経て八戸市ー仙台市間の全線が開通することになる。八戸市ー仙台市間の総延長359キロが自動車専用道路で結ばれ、所要時間は震災前の8時間35分から5時間13分に大幅に短縮される。三陸沿岸地域の移動時間が短縮することで人や物の流れが拡大し、地域活性化が期待される。</p>

(7)	<p>八戸市と苫小牧市 2022年度事業計画決定 三陸沿岸道路を活用し物流、観光を促進</p> <p>交流連携協定を締結する八戸市と苫小牧市は11月26日、「はちとまネットワーク会議」をリモートで開き、両市が連携して取り組む2022年度の事業計画を決めた。会議には、両市の担当職員のほか、フェリー事業者や港湾、観光の関係者が出席し、スポーツや物流など5分野に関する事業の現状が報告された。意見交換では、両市を結ぶフェリーと12月18日に全線開通する三陸沿岸道路を活用して物流、観光誘客の促進を図り、経済波及効果を生み出す重要性を確認した。2022年度は、フェリーを利用した北海道・北東北の周遊観光をPRし、観光ニーズを分析する調査を実施する。また、東南アジアコンテナ定期航路の誘致を目指し、両市が船会社へ共同訪問する。</p>
-----	--

【産業】

記事	概要
(8)	<p>八戸港 今季初2000トン超え サバ、マイワシ水揚げ</p> <p>八戸港で11月1日、大中型巻き網船団の運搬船17隻が、三沢沖付近で漁獲したサバと北海道東から搬入したマイワシの計2105トンを水揚げした。船団の2000トン超えは今季初で、ハマは活況を呈した。サバは前日夜から操業した13隻が1225トンを水揚げ。サイズは400～600グラムが主体で、入札の結果、10キロ当たり930～668円で取引された。今季最後となる道東マイワシは4隻が880トンを水揚げし、入札の結果、10キロ当たり475～430円の値が付いた。</p>
(9)	<p>俵屋（八戸）と仙台の大学連携 サバおでん登場</p> <p>宮城学院女子大（仙台市）の石原慎士教授の研究室と八戸市城下のすし店「日本の味 俵屋」は、八戸産のサバなどを使った産学連携商品「八戸発サバおでん」を開発し、11月5日から販売を始めた。八戸前沖さばの中でも特に大型の「銀鯖」を使用したきんちゃくや、サバの中落ちを使用した「鯖ちくわ」や「鯖天」など具材は6点。サバのだしを効かせたスープは「東北連係」と銘打ち、宮城県石巻市の老舗メーカーのしょうゆを取り入れた。値段は税込み880円で、俵屋と八戸市六日町の「サバの駅」で取り扱う。販売期間は来年3月ごろまでの見込み。</p>
(10)	<p>三八地域 阿房宮収穫大詰め</p> <p>三八地域で古くから栽培される食用菊「阿房宮」の収穫が大詰めを迎えた。9月から行われてきた食用菊のシーズンもいよいよ終盤。鮮やかな黄色に染まった畑で生産者が作業に精を出す光景は、晩秋の風物詩となっている。食用菊は早生種の「十五夜」から始まり、「八戸1号」「八戸2号」などと続く。晩生種の阿房宮は毎年6月下旬ごろに種まきし、10月下旬以降が収穫期となる。収穫後は、蒸して乾燥させ、干し菊として出荷される。</p>
(11)	<p>青銀、みち銀 統合最終契約 プロクレアHD 来年4月設立</p> <p>2024年4月の合併を目指す青森銀行とみちのく銀行は11月12日、経営統合の最終契約を締結したと正式発表した。2022年4月1日に持ち株会社「プロクレアホールディングス（HD）」を設立し、両行が傘下に入る。来年1月にそれぞれ臨時株主総会を開き、株式移転計画の承認を決議する方針。株式移転比率は、青銀が1、みち銀が0.46。プロクレアHDは東京証券取引所で最上位区分の「プライム市場」への上場を目指す。資本金は200億円。プロクレアは、「挑戦」と「創造」を意味するラテン語を合わせた造語。</p>

(12)	<p>世界初 雪腐病への抵抗力測定</p> <p>国立研究開発法人「農業・食品産業技術総合研究機構」(茨城県つくば市)は、麦類や牧草を枯らす雪腐病の菌に対する植物の抵抗力を評価する実験技術を世界で初めて確立した。技術開発には、雪腐病について長年研究を進める八戸工業大工学部の星野保教授も参加した。北海道や東北など長期間作物が雪で覆われる地域では、毎年のように雪腐病が発生するが、感染は積もった雪の下で広がるため、雪腐病の菌自体は発見されていたものの、病気の進行についての解明は進んでいなかった。新たな技術の応用により、雪腐病に強い抵抗力がある作物の誕生や、防除技術の開発に期待ができる。</p>
(13)	<p>国内唯一 米大手旅行誌英ウェブ版に八戸圏域特集</p> <p>米国の大手旅行雑誌「コンデナスト・トラベラー」英国版ウェブサイトの特集「2022年ベストホリデーステイネーション(最高な休暇を過ごせる旅先)」に、八戸圏域が日本で唯一掲載された。特集では、エジプトや中国・北京、英国エディンバラなど22カ所を紹介。世界の有名観光地と並び、八戸圏域の東日本大震災からの復興や「みちのく潮風トレイル」、縄文文化、史跡根城などが取り上げられた。これまで八戸圏域版DMO(観光地域づくり推進法人)「VISITはちのへ」は、英国、フランス、台湾をインバウンドのターゲットにしており、自然や歴史、文化に特色がある八戸圏域は、英仏の旅行者に受け入れられやすいと、地域の魅力を旅行会社やメディアに発信してきた。世界三大旅行誌の一つである同誌への掲載で、新型コロナウイルス感染収束後を見据えた観光産業の回復へ弾みとなることが期待される。</p>

【地域】

記事	概要
(14)	<p>はちのへ菊まつり 大輪の花 鮮やか</p> <p>「第50回はちのへ菊まつり」が11月6日から8日まで、八戸市の「はっち」とマチニワで開催された。市と八戸市を縁にする会の主催で、愛好家らが丹精込めて育てた菊約300点が展示された。今年は7月の猛暑や8月の低温により生育が心配されたが、10月には暖かい日が続き、大輪の花を咲かせた。会場には、八戸発祥で荒波のように盛り上がる中央部と波しぶきのように外側に伸びる花びらが特徴の「奥州菊」や、崖から垂れ下がるように花が連なる「懸崖」、「川中島の戦い」をテーマにした菊人形などが並び、来場者を魅了した。</p>
(15)	<p>八戸の潮風トレイルPR 八戸東高生、映像制作</p> <p>青森県立八戸東高校表現科の3年生7人が、みちのく潮風トレイルの八戸区間をPRする映像を制作した。現在、「はっち」、マチニワの大型ビジョン、蕪島休憩所で放映されており、市民や観光客に向けて地域の魅力を発信している。映像表現を学ぶ授業の一環で、非常勤講師の久慈和雄さんが授業の資料用などに撮りためたトレイルルート上の写真や動画を活用し、生徒自ら構成やナレーションを考え制作した。映像は約6分の短縮版と約17分のフル版がある。</p>
(16)	<p>工大二高生制作 新作観光ポスター披露</p> <p>八戸駅前駐車場連絡通路に展示されている「私たちのおすすめ観光ポスター」が2年ぶりに更新され、八戸工大二高美術コースの2、3年生が制作したポスターが披露された。展示は、八戸市が観光客らに同市と周辺地域の魅力を知ってもらおうと、2005年から実施しているもので、2年ごとに作品を更新している。生徒がコンピューターグラフィックスなどを使って制作し、蕪島のウミネコやイカ、みろく横丁が描かれたポスターのほか、近隣市町村の観光資源を紹介する31点が並んでいる。</p>

(17)	<p>老舗料亭「つきぎ田村」4代目・依田さん「割烹銀波」(八戸)で修行中</p> <p>東京・築地の老舗料亭「つきぎ田村」の4代目・依田裕治さんが、「割烹銀波」で修行を積んでいる。昨年12月に3代目の田村隆さんが急逝し、4代目を継ぐことになった依田さん。つきぎ田村は政財界の関係者の利用も多い老舗料亭で、3代目の田村さんは調理場に立つ傍ら、NHK「きょうの料理」などのメディアに出演したり、料理本の出版を手掛けたりと、和食の魅力を広く伝えた料理人だった。依田さんは、東京の有名料亭などで経験を積む選択肢もあったが、「生産現場の雰囲気を感じ、今後の料理に生かしたい」と豊富な海や山の幸が身近にある八戸を修行の場に選んだ。家族を東京に残し、田村さんと20年来の交流があった「割烹銀波」で1年間修業を積む。</p>
(18)	<p>八戸花火大会 冬の夜空彩る6000発</p> <p>第41回八戸花火大会が11月28日、八戸市の館鼻岸壁で開かれた。当初は8月に実施予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で延期され、初の冬季開催となった。昨年同様、会場内の密集を避けるため、入場できる観覧客を有料席と招待席のみに限定し、屋台などの出店も取りやめた。大会は午後5時にスタートし、音楽に合わせて大玉を中心に打ち上げ、約6千発の花火が冬の夜空を彩った。新型コロナの収束を願って医療従事者への感謝を伝える青色の花火や、東日本大震災から10年が経過したことを受け、復興と鎮魂の祈りを込めた花火も打ち上がった。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(19)	<p>一王寺遺跡(八戸)から国内最古の縄文土面出土</p> <p>八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館は11月12日、同市是川の一王寺遺跡から、縄文時代中期前半(約5300~5100年前)の土面が出土したと発表した。縄文時代の土面としては国内最古。一王寺遺跡は、世界遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」を構成する是川石器時代遺跡の一部で、土面は土器などの「捨て場」と想定される区域で発見された。ひもを通す穴がなく小型であることから、顔に装着するお面としてではなく、祭りや儀式的場で手に持って掲げるなどして使用されていたとみられる。これまで徳島県で出土した縄文時代後期初頭(約4千年前)の土面が最も古かったが、それを大きくさかのぼる出土品で、学術的にも貴重な史料となる。</p>
(20)	<p>来年の八戸えんぶり 一斉摺り実施</p> <p>八戸地方えんぶり保存振興会は11月16日の総会で、来年の「八戸えんぶり」を2月17~20日の4日間、一部規模を縮小して実施することを決めた。予定通り実施されれば2年ぶりとなる。八戸市中心街でえんぶり組が競演する一斉摺りのほか、御前えんぶり、かがり火えんぶり、お庭えんぶりなど、新型コロナ対策を講じながら市内各地での行事を開催する。一方、期間初日に長者山新羅神社で執り行われる奉納摺りと長者山稻荷大神御神輿渡御式の両神事、奉納後の撮影会は中止となる。10月に八戸地方えんぶり連合協議会が行った調査では、例年参加している34組中23組が参加の意向を示している。振興会は12月末にも改めて参加の可否を確認する方針。</p>
(21)	<p>ヴァンラーレ八戸 ホーム最終戦白星 J2昇格「来季決めて」</p> <p>サッカーJ3のヴァンラーレ八戸は11月21日、八戸市プライフーズスタジアムで今季のホーム最終戦に臨んだ。J2昇格圏外が確定した中で格上チームFC岐阜とのゲームだったが、メンバーは今季最多タイとなる2千人超のサポーターに白星を届けた。J3在籍3季目を迎えたヴァンラーレは今季、クラブとして初めてJ2ライセンスを取得したものの、10月中旬には成績要件(2位以内)を満たせないことが確定していた。試合後、チーム関係者はスタンドに向かって「成績を残せずに申し訳ない」と謝罪した一方、コロナ禍の中で奮闘する姿を見続けてきたサポーターはねぎらいの拍手と共に、「来季こそJ2昇格を決めて」とエールを送った。</p>

はちのへ

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に!

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただく寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただきます。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



ふるさと寄附金の3つの魅力

① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

申込み方法

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



インターネット

- 下記2つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス

楽天ふるさと納税



送付先

八戸市 広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

※担当部署が住民税課から広報統計課に変わりました。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 松橋 大輔 [主幹] 川村 幸男 [事務員] 浜井 章代

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。